

平成 30 年度第 2 回富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(議事概要)

日 時：平成 31 年 2 月 22 日 (金) 10:30～12:00

場 所：富山県民会館 302 号室

説明事項：(1) 平成 31 年度 富山県中小企業振興施策 (当初予算) について
(2) 国の中小企業振興施策等について
(中部経済産業局、富山労働局)

委員からの主な意見

- ・ 県の施策を P R するためには、商工会議所や東京富山県人会等の様々なネットワークを活用するのが良い。また、スタートアップに関する表彰を行っているが、P R のため、この結果を「ねまるちゃ」等に掲載いただきたい。
- ・ 業種業界毎に構造が異なるため、産業政策は産業毎に考えるのが一般的であるが、日本では、中小企業は一括りにされてしまうため、見方を変えていくべきである。また、中小企業全体の生産性向上のため、業種業界毎に再編統合を促していくべきである。
- ・ 今年度は消費税の引上げに絡む手続きに関する対応の準備が懸念される。このため、税制での補助制度は、積極的にアピールしていきたい。
- ・ 富山県は非常にバランスの取れた産業構造をしており、各企業が競争しながら高めあっている地域であるが、人手不足が大きな課題である。これはワーカーだけではなく、将来を担う幹部候補生についても同じであるため、そのような人材育成の施策もお願いしたい。また、首都圏の大学のサテライトキャンパスを誘致する等して、魅力ある地域を形成していくのが良い。
- ・ 創業支援資金の保証料率引下げ等については、金融機関とタイアップして進めていきたい。
- ・ 県内の大学では、大学同士、また、産学官で連携し、様々な取組みを行っている。県とも、ヘルスケアの産業育成やメディカルデザイン等で連携を図っていきたい。また、人材活躍推進センターに関し、発達障害の子供たち、若者たちの就労支援は非常に重要である。
- ・ 大学では、I C T や A I 技術の急速な進展を受けて、それらに関わるスキルアップを非常に強めている。特にデータサイエンスに関するスキルは、これ

からどんどん必要になってくるだろう。リカレント教育に関しても促進していきたい。

- ・北陸能開大や技術専門学院で行われている技術訓練は、企業から見ると棲み分けがわかりにくいので、統一したパンフレット等があれば、さらに効果がでると思われる。また、大学生の就職支援と見本市を連携する等、事業間の連携が重要になっていくと思われる。
- ・中小企業や小規模企業、個人商店等は、それぞれニーズが異なるため、中小企業として一括りにしないことは、非常に重要である。また、幹部候補生の獲得のため、UIJターンを促進する必要があると思うが、女性にとっては、富山に移住するのは敷居が高いという側面がある。このため、例えば、創業支援においても、女性が起業しやすくする取組みがあると良い。その他、障害者雇用がこれから重要になっていくと思われるが、障害者を支える外部からのJOBコーチや介助者といった人的支援についても検討してほしい。
- ・人材活躍推進センターの設立は良いことだが、休日でも行けるような、使いやすいものにしていただきたい。また、これから外国人労働者が増えることになると思うが、外国人労働者にとって、本当に住みやすい町はどのようなものか、働きやすい職場環境はどのようなものか、ヒアリングを通じて深掘し、取組みを進めていきたい。